

約150の私的保険機関およびブルークロス・ブルーシェールドが、現在、前払いの歯科治療保険証券を発行しており、購入者は増加する一方であるという。

しかしながら、歯科治療保険の発展は、歯科医師ならびに関係職員の問題を抜きにしては考えられない。

若干の歯科医師達は、保険の請求が、時として、歯科治療技術の質の十分な考慮なくして承認されたり、承認されなかったりしていることに不満を述べている。またある者は、若干の保険が予防歯科医術の費用を無視する傾向にあると発表している。

しかし大部分の開業医達は、前払いの歯科治療保険プランが技術の進歩の里程碑を示すものであり、その拡充発展は、おそらく、歯科医師および患者の双方にとって良いものになるであろう、という一致した見解をもっている。「一年に歯科医師を訪れる者は、全人口の半数で、4人につき1人は再治療のため訪れている」と公衆衛生局長は語っている。

歯科治療保険の増大とともに、前述のような治療費の決定についての歯科医師の不満およびマンパワーの欠如等が、今後の発展についての最大のネックと目されている。

U.S. News & World Report, Sept. 8, 1975.

(藤田貴恵子 国立国会図書館)

疾病金庫の給付 についての与党案 (西ドイツ)

最近予算の縮小、節約について政府は非常な努力をしているが、社会関係予算についても政府与党は、政府が既に決定している以上の節約案を考えている。SPDの専門家が記者に語ったところでも、疾病保険の給付もその例にもれな

い。この節約案は1976年前半にも公表されるはずである。

与党の中でもSPD(社会民主党)とFDP(自由民主党)とは疾病保険の節約の方法について意見が異なる。その詳細はまだ明らかにされていないが、いまのところ次の点が論議されている。

○世帯援助の支給(母親の入院の場合)は、近親者がいないときに限る。

○義歯に対する金庫の補助は計算額の80%以下とする。

○外国での保養は廃止する。SPDはさらに一切の保養について医学上の厳しい条件をつけている。

○現在最高2.5マルクの処方料報酬を上げる。これについてFDPは4マルクを主張している。さらに社会的見地からの報酬の段階別も考慮されている。

○処方更新に当たって医師の費用を節約するため、処方反復制を導入する。

○健康障害あるいは副作用の恐れのある医薬品の処方止める。

○例えば精神療法や整形治療その他のように、それが適切と認められるものは、被保険者に費用を分担させる。この意見は特にFDPが推進している。

○出産手当の支払いは、婦人が法定の準備検査を受けた場合に限る。

以上の項目は両党がそれぞれ力点を異にしているが、特に批判されているのは、FDPが推進している患者による医療費の負担で、SPDと連邦労相Arendtはこれを拒否している。目下連邦議会の社会委員会で疾病保険継続発展法(Krankenversicherung-Weiterentwicklungsgesetz)を審議しているが、これをもって被保険者の請求は限定されることになろう。

両与党がこの問題に真剣にとり組んでいるのは、年金保険の財政状態の悪化と共に、疾病金庫の支出が増加の一途をたどっているためである。

Die Welt, September, 30. 1975.

(安積鋭二 国立国会図書館)